

健康ぷらざ

No.276

企画:日本医師会

まぶたが下がってくる

頭痛や肩こりの原因にも

眼瞼下垂とは、まぶたが下がって開きづらくなった状態です。

生まれつきの先天性眼瞼下垂と、

後から起こる後天性眼瞼下垂とがあります。

先天性の場合は、まぶたを持ち上げる筋肉が未発達なことが原因です。

後天性眼瞼下垂は、まぶたをこすりすぎる、

あるいは老化などの原因で、

まぶたを持ち上げる筋肉がゆるむために起こります。

後天性眼瞼下垂では視力が落ちることはほとんどありません。

しかし、まぶたが下がったままの状態では、^{まゆげ}眉毛を無理に上げようしたり、

首を曲げあごを上げて物を見ようとする習慣がついてしまいます。

この状態が長く続くと額にシワがより、

頭痛や肩こり、あごの関節が痛くなる原因になります。

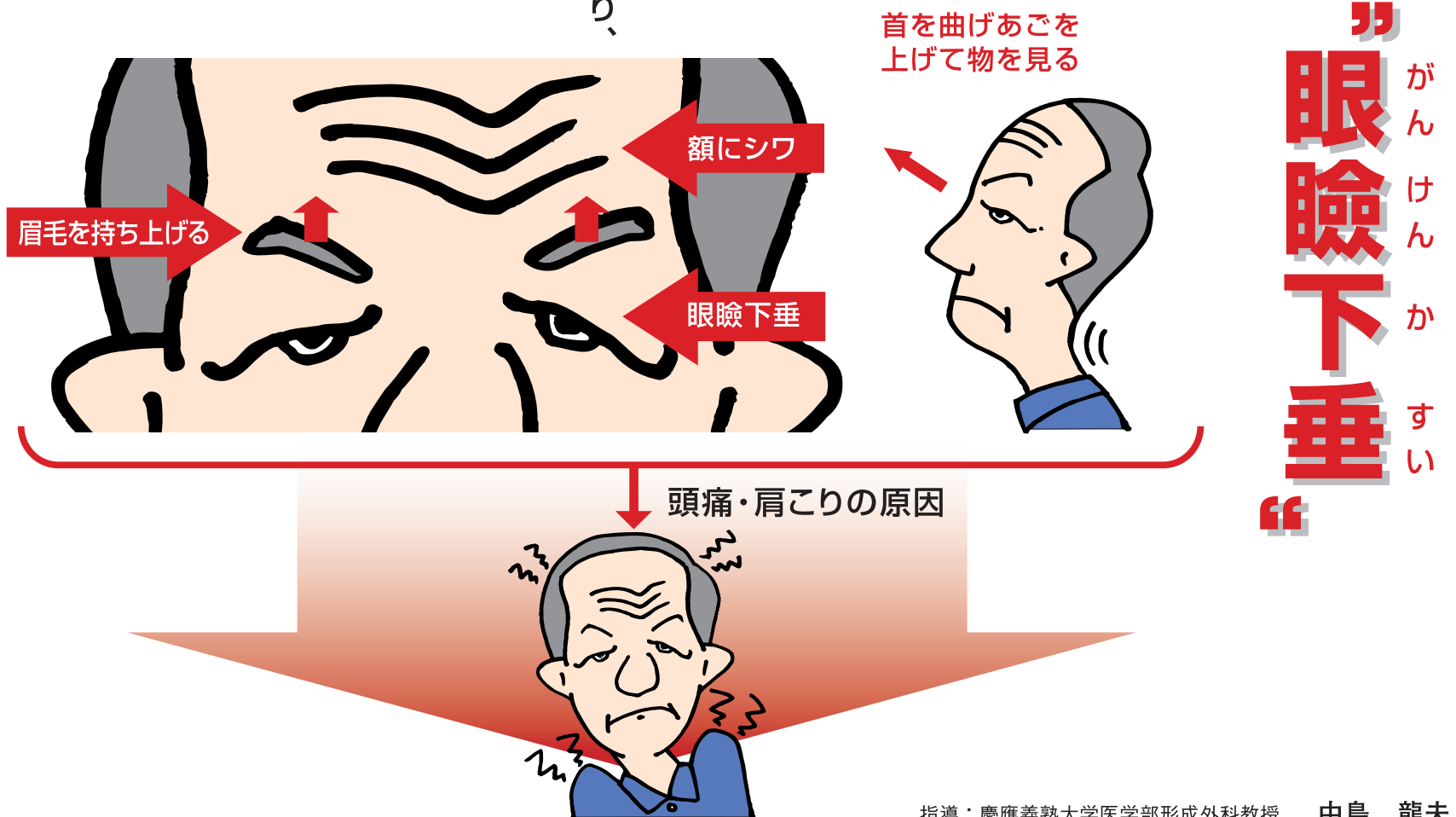
まぶたを開けやすくするために、

治療としてはまぶたを持ち上げる筋肉を短くしたり、

筋肉を補強する手術を行います。

子どもの場合は、社会にうまく適応するためにも、

3歳から小学校入学前までには手術を受けたほうがよいのですが、
まず、かかりつけの医師に相談しましょう。



指導：慶應義塾大学医学部形成外科教授 中島 龍夫

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。